

アザミウマ類情報第1号 (ナス・キュウリ・イチゴ)

令和8年4月6日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナス、キュウリ、イチゴで多発！注意しましょう！

1 発生状況

3月下旬に実施した巡回調査の結果、ナスにおけるミナミキイロアザミウマ（図1）の寄生葉率が3.85%（平年0.96%、前年0.15%）で、過去10年と比較して最も高い状況でした。また、キュウリにおける寄生葉率は17.13%（平年10.03%、前年7.50%）で、過去10年と比較して2番目に高い状況でした。

イチゴにおけるアザミウマ類の寄生花率が13.04%（平年7.65%、前年8.41%）で、過去10年と比較して最も高い状況でした。



図1 ミナミキイロアザミウマ成虫



図2 キュウリ黄化えそ病発病葉

2 防除対策

- (1) 本虫の発生を認めたら、表を参考にして、密度の低いうちに防除しましょう。
- (2) 本虫は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統（表のIRACコード参照）薬剤の連用は避けましょう。また、天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して薬剤を選定しましょう。
- (3) キュウリ黄化えそ病(図2)はミナミキイロアザミウマにより媒介されます。発病株は伝染源となるため見つけ次第除去しましょう。
- (4) 本虫の施設内への侵入を防ぐために防虫ネットを利用しましょう。白色系を使用する場合は目合い0.4mm以下のネットを、赤色系を使用する場合は目合い0.8mm以下のネットを利用しましょう。防虫ネットにやぶれがある場合は補修しましょう。
- (5) 栽培終了後はハウスの蒸し込みを行い本虫を死滅させるとともに、ほ場周辺の除草に努めましょう。

(6) 青色の粘着板などを利用して発生状況をよく観察し、本虫の早期発見に努めましょう。また、天敵を積極的に活用しましょう。

表 アザミウマ類に対する主な防除薬剤

作物名	適用害虫名	農薬名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
なす	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	収穫前日まで	3回以内	34
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	4A
		アフーム乳剤	収穫前日まで	2回以内	6
		グレーシア乳剤	収穫前日まで	2回以内	30
	ミナミキイロ アザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	4回以内	13
		ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
きゅうり	アザミウマ類	ヨーバルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	28
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	4A
		アグリメック	収穫前日まで	2回以内	6
	ミナミキイロ アザミウマ	ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
		コテツフロアブル	収穫前日まで	3回以内	13
いちご	アザミウマ類	ディアナSC	収穫前日まで	2回以内	5
		ダブルシューターSE	収穫前日まで	2回以内	-, 5
		グレーシア乳剤	収穫前日まで	2回以内	30
	ミカンキイロ アザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	2回以内	13

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、

https://www.croplifejapan.org/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。